

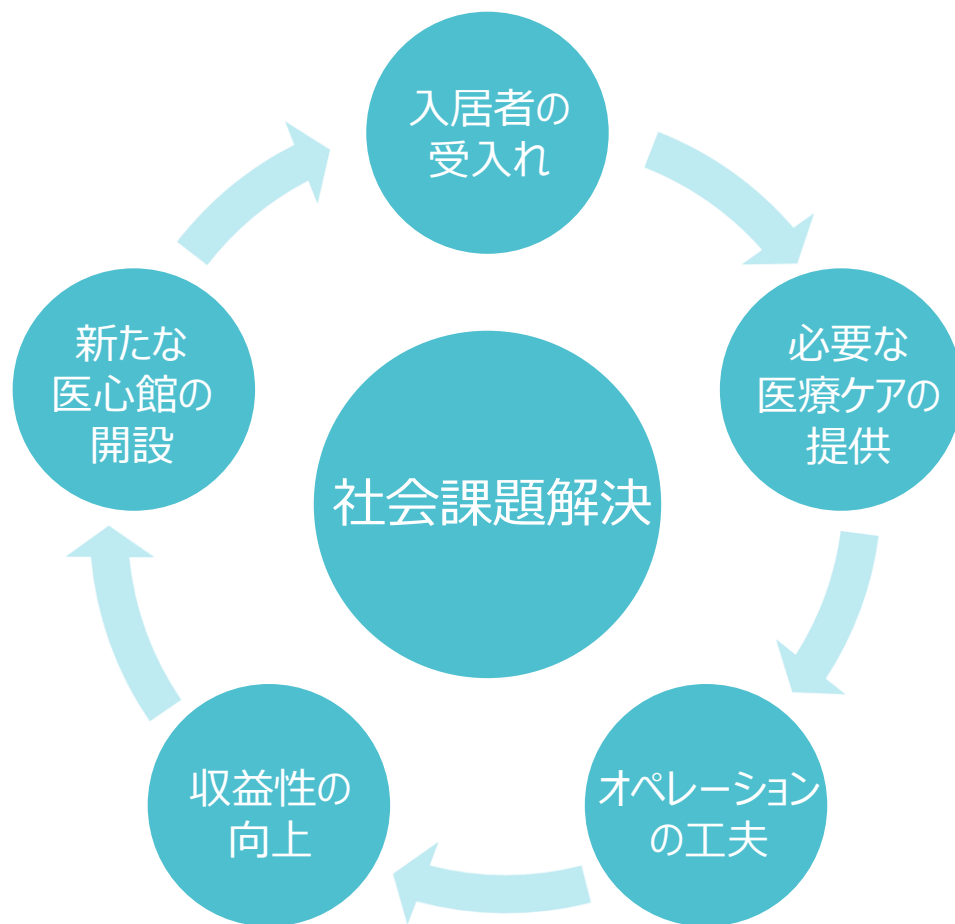


2022年9月期第3四半期
決算ハイライト

株式会社アンビスホールディングス

2022年8月10日

社会課題解決型事業



国により入院日数の短縮と在宅への復帰が推し進められているなか、他の病院や施設ではお断りされることが多かった、がん末期の方、人工呼吸器の装着や気管切開で呼吸管理が必要な方、そして神経変性疾患を患う方などを、医心館は積極的に受け入れてきました。そして、これまで担当されてきた主治医やケアマネジャーの継続を原則とするなど、地域医療がよりうまく機能するためのサポーターであることを意識してきました。

私たちは退院後の行き先にお困りの方々が大切な時間を少しでも幸せなかたちにできるように、また地域医療の一翼となれるよう医心館を運営することを愚直に取り組んでいきたいと考えています。

医心館が、地域医療の活性化、コロナ対策で疲弊する医療従事者の疲弊軽減、医療の地域間格差の緩和の医療課題解決の一助になれば幸いです。

22年9月期通期業績予想の上方修正

(第3四半期累計実績) 売上高

164.1億円

(修正後予想対比進捗率：73.0%)

(第3四半期累計実績) 営業利益

43.9億円

(修正後予想対比進捗率：75.8%)

(上方修正後通期予想) 売上高

224.8億円

(修正前予想対比：+8.0億円)

(上方修正後通期予想) 営業利益

58.0億円

(修正前予想対比：+8.3億円)

- 既存施設の稼働率が上半期に続き、安定稼働の目安である80~85%と同水準（84.4%）で推移し、首都圏を中心とした新規施設の立ち上がりが順調であることを踏まえ、第3四半期累計の業績は順調に推移
 - ✓ 売上高：164.1億円（修正前予想対比進捗率：75.7%）
 - ✓ 営業利益：43.9億円（修正前予想対比進捗率：88.6%）
 - ✓ 当期純利益：30.5億円（修正前予想対比進捗率：92.5%）
- 第3四半期までの業績の上振れ及び当初予想に考慮していなかった医心館 菊名の影響等を織り込み、22年9月期通期業績予想を上方修正
 - ✓ 首都圏を中心とした新規施設の立ち上がりが順調であること及び稼働率に合わせた人員管理が大きく寄与
- 第3四半期までの新規開設は、計画通り14施設の開設を実施し、22年6月末時点において、56施設（定員2,700名）を運営
 - ✓ 22年9月期：第4四半期に予定している2施設の開設を含め、16施設の開設を予定
 - ✓ 23年9月期：既に17施設の開設を公表しており、23年9月末時点において、Amvis 2023の目標である70施設を上回る75施設となる予定
- 大株主の持分売却により株式流動性が改善し、スタンダード市場の上場維持基準を全項目で充足（当社試算）
 - ✓ 22年5月19日付の変更報告書により、大株主である柴原慶一の保有割合が3.7%低下したことを確認
 - ✓ 22年10月1日を効力発生日とする株式分割を実施予定

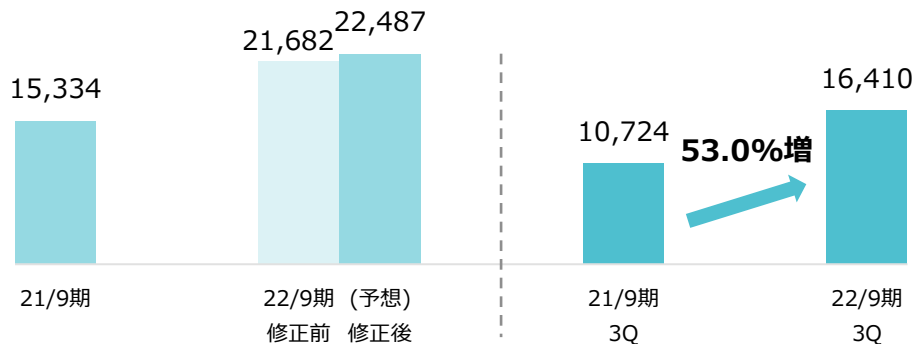
施設数・定員数の増加に伴い、売上・利益も着実に増加

- 前年同期末以降、施設数は15施設増加、定員数は約1.4倍増加し、売上高も比例して大幅に増加
- 増員体制を継続しつつも、オペレーションの工夫により高収益性を維持

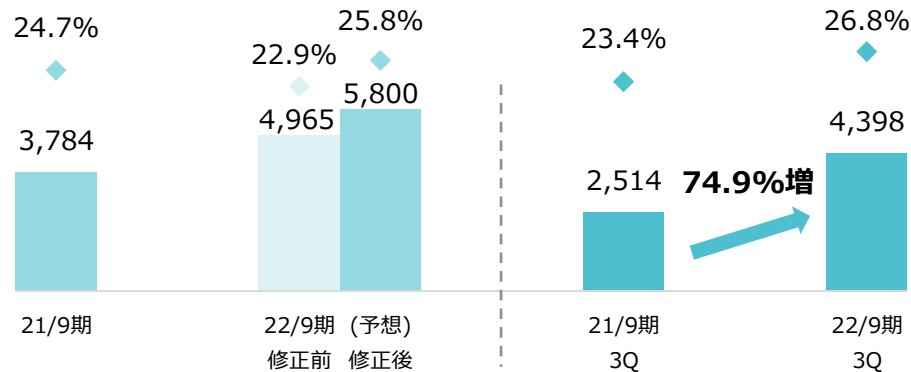
第3四半期実績及び通期予想に対する進捗

売上高

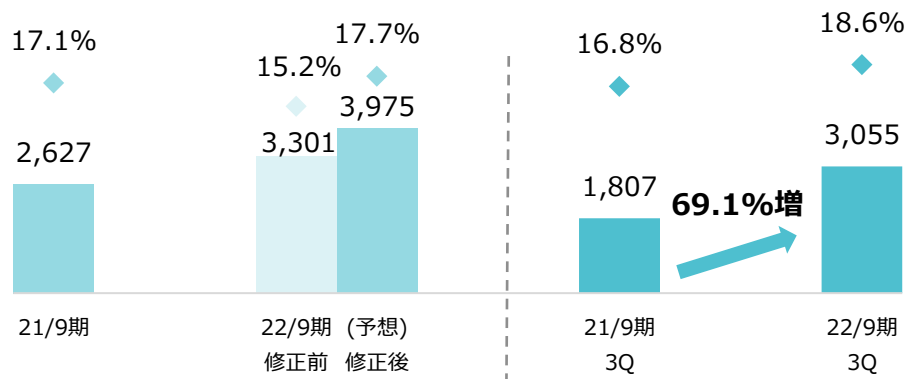
(百万円 / %)



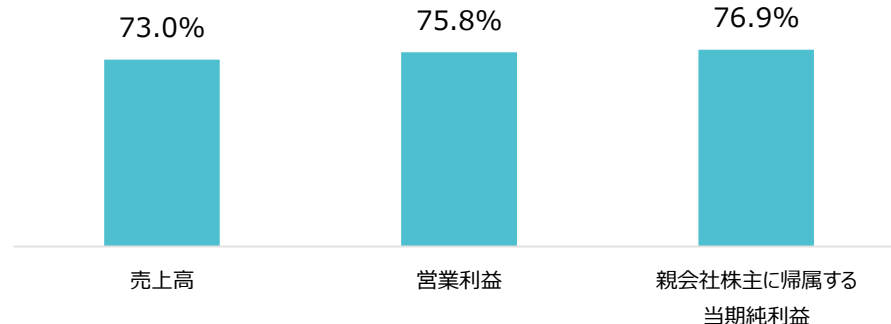
営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益



修正後予想対比進捗率



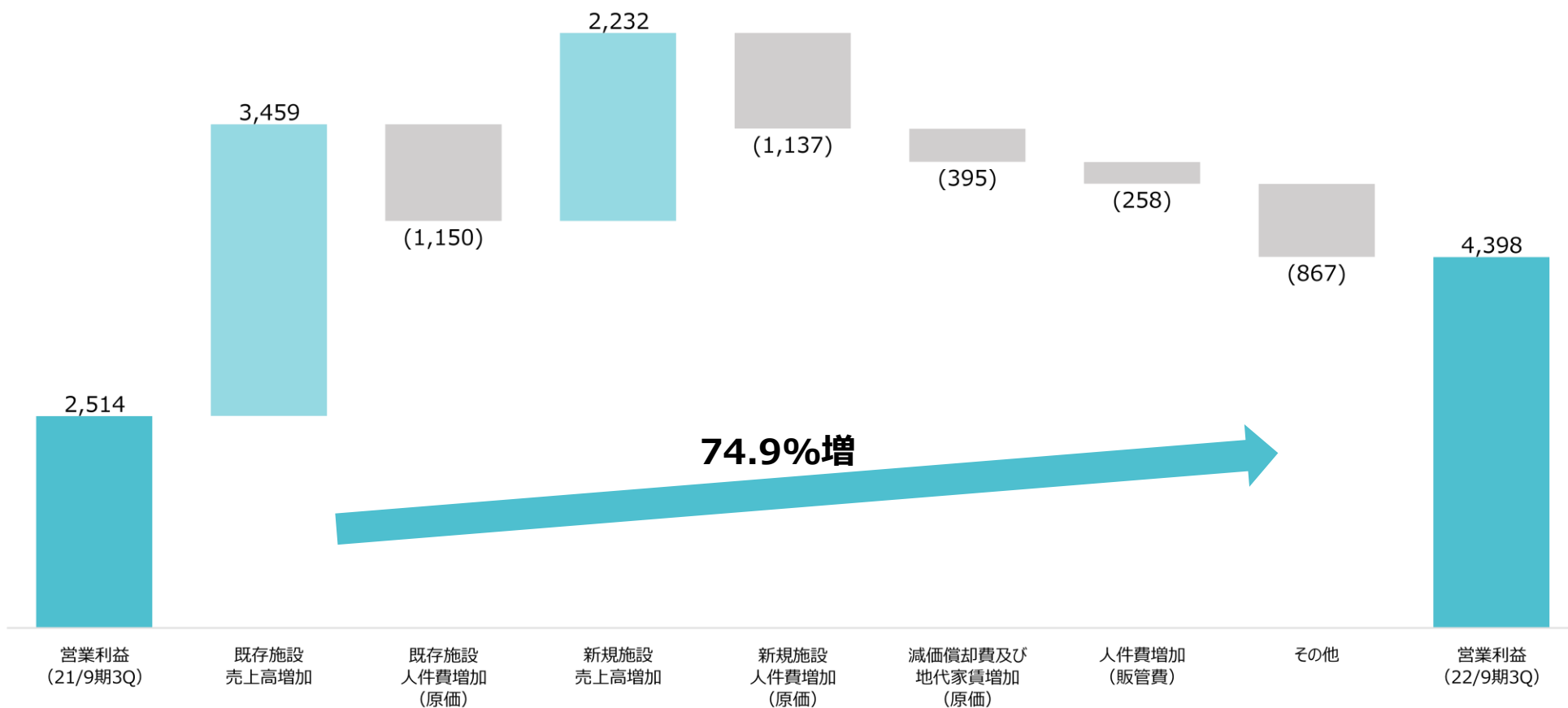
◆ : 売上高比

既存施設・新規施設共に稼働率は安定して推移

- 既存施設の稼働率（84.4%）、新規施設の稼働率（50~55%）⁽¹⁾ともに順調に推移
- 施設数・定員数の増加に伴い、営業利益は比例して増加（21年6月末：41施設、22年6月末：56施設）

営業利益推移（21年9月期第3四半期 – 22年9月期第3四半期）

(百万円)



注：

1. 新規施設：21/9期第3四半期末にて未開設の施設（後頁同様） / 稼働率：中央値

- 22年9月期の開設数は当初予想を上回る16施設（825名）となる予定
- 今後も、首都圏を中心とする既進出地域でのドミナント形成を加速する方針

直近のトピック

23年9月期 Amvis 2023目標の70施設を達成見込み

22年4月以降の開設計画（～23年9月期）

開設時期	開設場所	総定員数 (名)
22年4月	上越、つくば、南流山	157
22年6月	菊名、静岡、新潟Ⅲ	153
22年8月	稲毛	50
22年9月	弘前	52
22年10月	千葉駅前、東札幌、横浜中山	171
22年11月	仙川、富士	99
22年12月	春日部、沼津	104
23年2月	佐倉、鶴ヶ島	97
23年4月	久喜、藤沢、八事南山	153
23年6月	相模原、つくばⅡ	100
23年7月	西永福	62
23年8月	大森、西船橋	131

注：

1. 総定員数は、複数施設の定員数を合計したもの
2. 西船橋の定員数は、2022年5月30日公表時の55名から54名へ変更

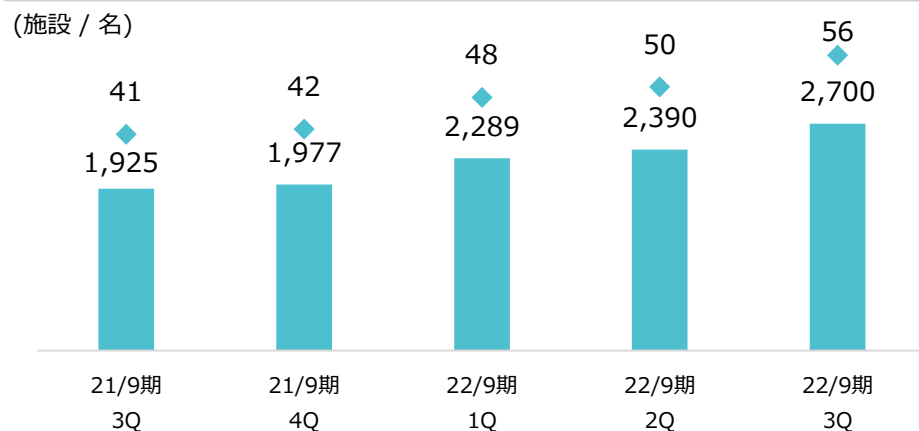
全国の医心館



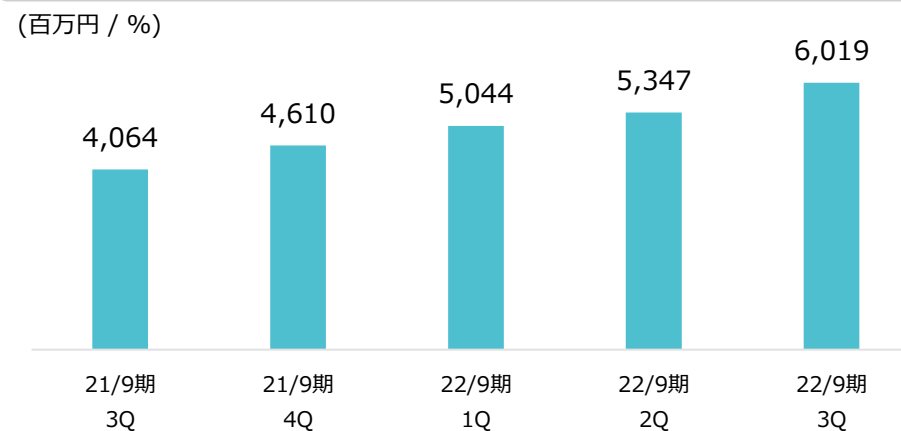
四半期業績推移 – 主要財務指標

直近1年間四半期業績推移

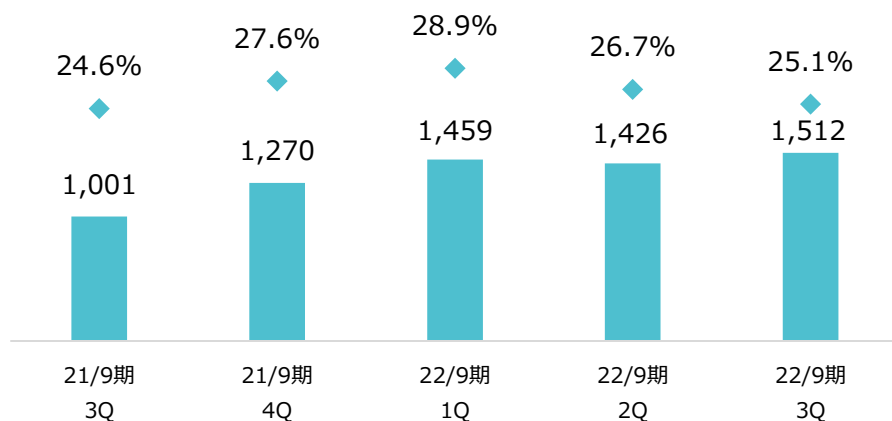
施設数 / 定員数



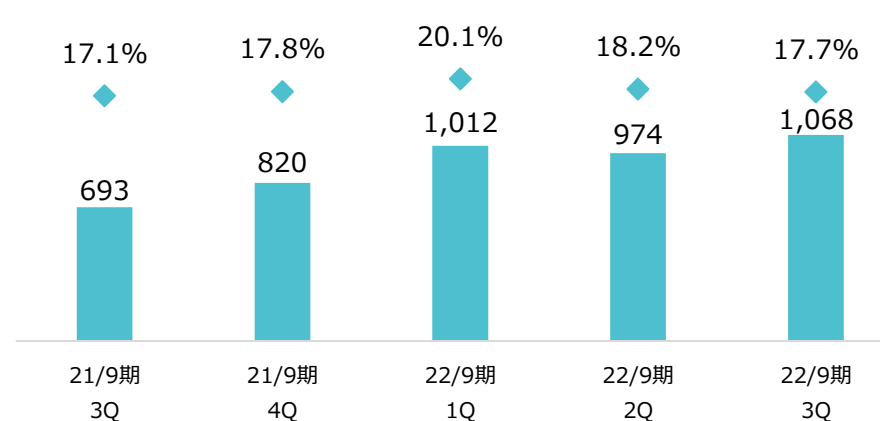
売上高



営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益

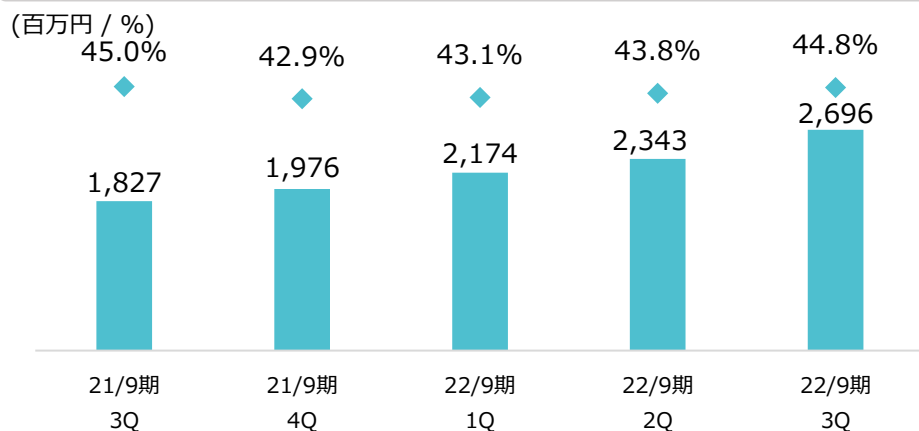


◆ : 売上高比

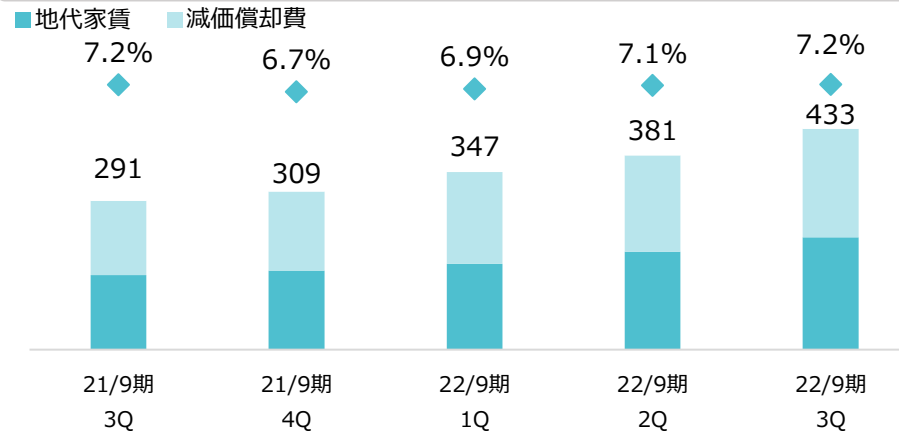
四半期業績推移 – 主要売上原価 / 販管費

直近1年間四半期業績推移

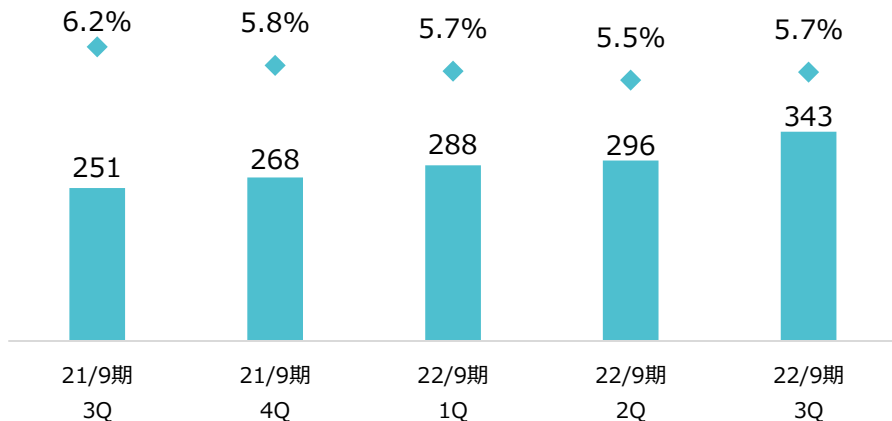
人件費（売上原価）



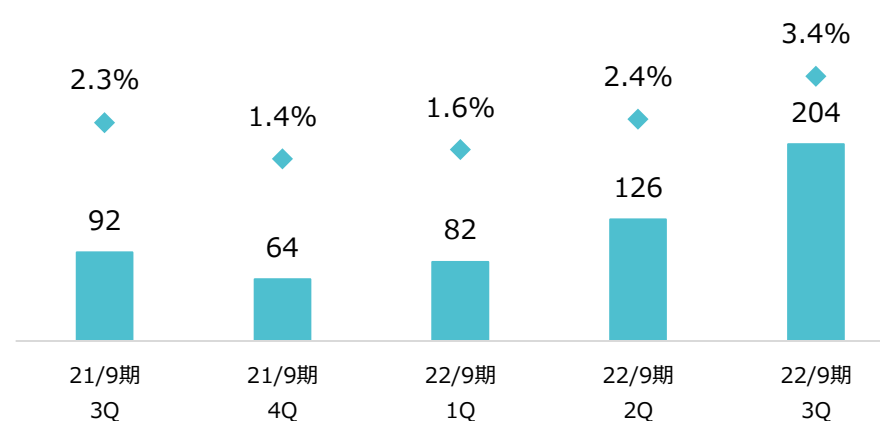
地代家賃及び減価償却費（売上原価）



人件費（販管費）



採用費（販管費）



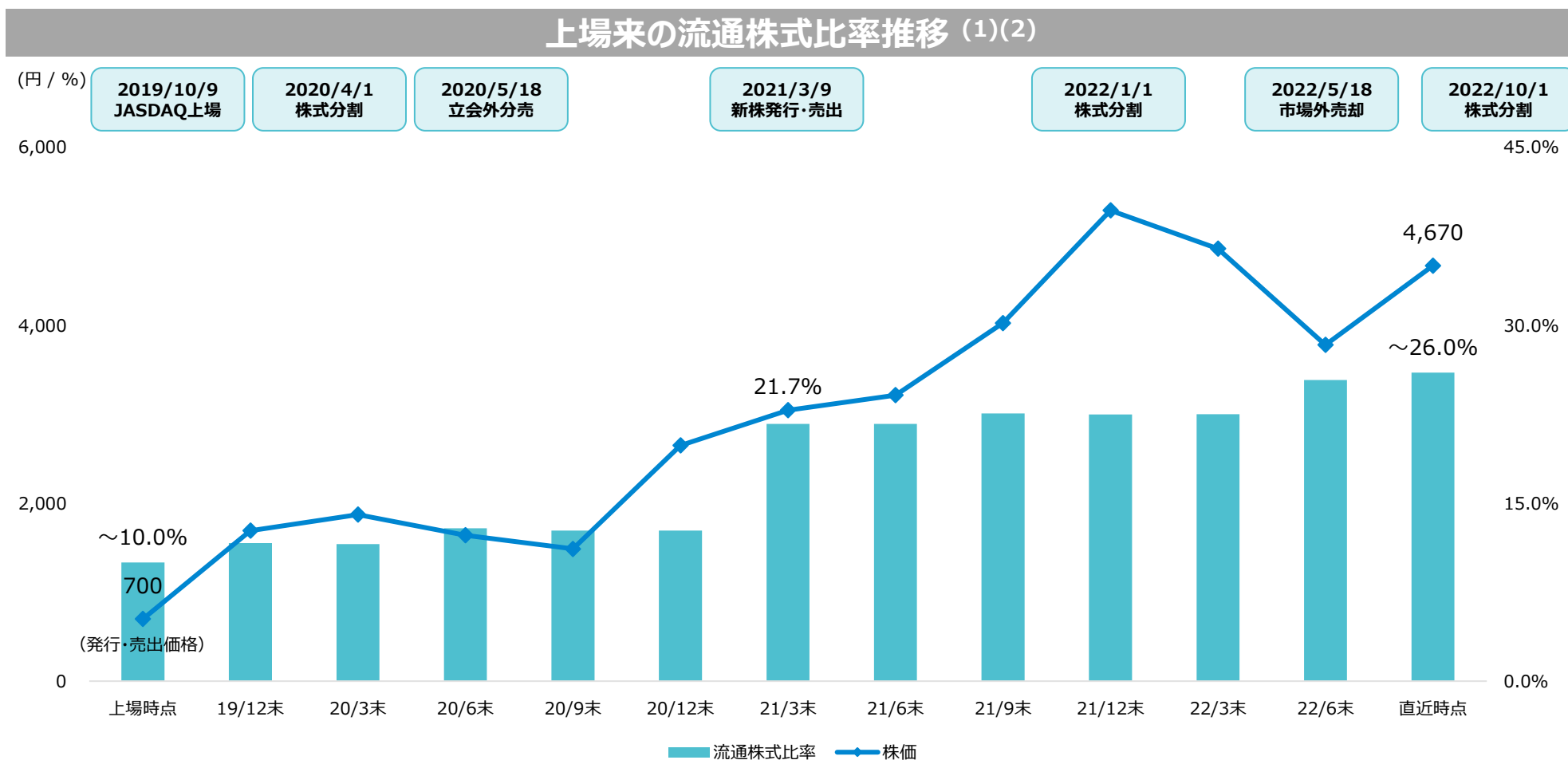
◆ : 売上高比

財政状態概要

(百万円 / %)	20/9末	21/9末	22/6末	対21/9末 増減
資産	16,519	31,922	39,118	+22.5%
現金及び預金	3,335	11,192	11,393	+1.8%
建物及び構築物（純額）	3,548	8,963	11,666	+30.2%
負債	11,264	15,580	19,940	+28.0%
借入金	6,250	8,967	12,254	+36.7%
純資産	5,255	16,341	19,177	+17.4%
自己資本比率	31.8%	51.2%	49.0%	(2.2pt)

株式流動性の改善

- 上場来、大株主の持分売却や株式分割により、株式流動性は着実に改善
- 22年5月の市場外売却を踏まえ、現時点でスタンダード市場の上場維持基準（25.0%）を充足見込み



- 注：
1. 各四半期末時点で最新の株主名簿の情報をもとに、当社の把握している株式売買の情報を反映し算出した値
 2. 直近時点（22年7月末時点）は、過去発行したストック・オプションの従業員行使による変動を反映



参考資料

Amvis 2023目標

施設数 / 定員数



売上高



70施設 / 3,411名
(中長期目標 : 100施設 / 5,000名)

22年9月末 (予想) : 58施設 / 2,802名
21年9月末 (実績) : 42施設 / 1,977名
20年9月末 (実績) : 29施設 / 1,270名

292億円
(中長期目標 : 450億円)

22年9月期 (予想) : 224億円
21年9月期 (実績) : 153億円
20年9月期 (実績) : 91億円

営業利益



当期純利益 年平均成長率



67億円
(中長期目標 : 100億円)

22年9月期 (予想) : 58億円
21年9月期 (実績) : 37億円
20年9月期 (実績) : 18億円

30%台後半
(中長期目標 : 20%台)

20年9月期 – 23年9月期 (予想) : 53%

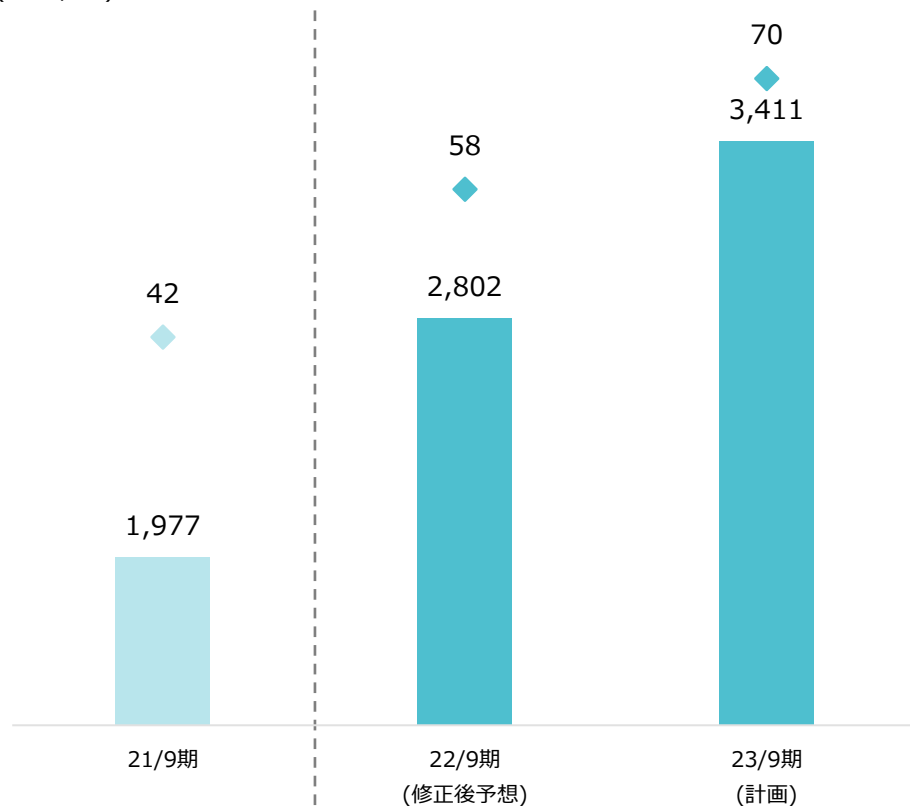
注 :

1. Amvis 2023目標は2021年11月に公表した数値から変更なし
2. 施設数 / 定員数は、23年9月末時点において75施設 / 3,719名を予定しており、Amvis 2023目標を達成見込み

Amvis 2023目標

施設数 / 定員数

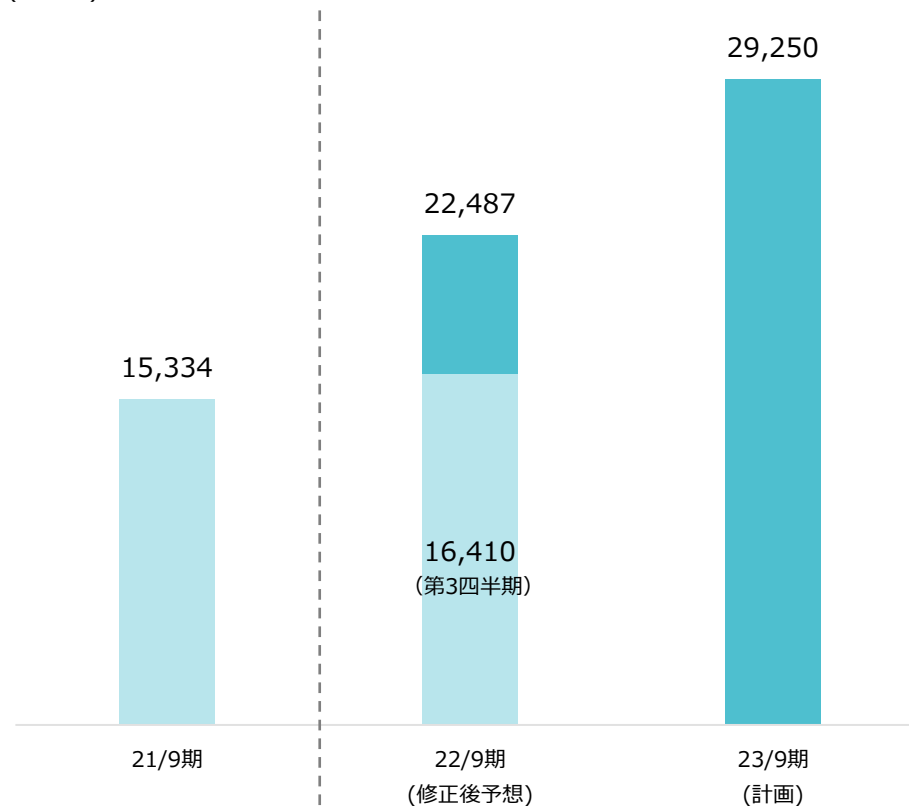
(施設 / 名)



■実績 ■中計

売上高

(百万円)



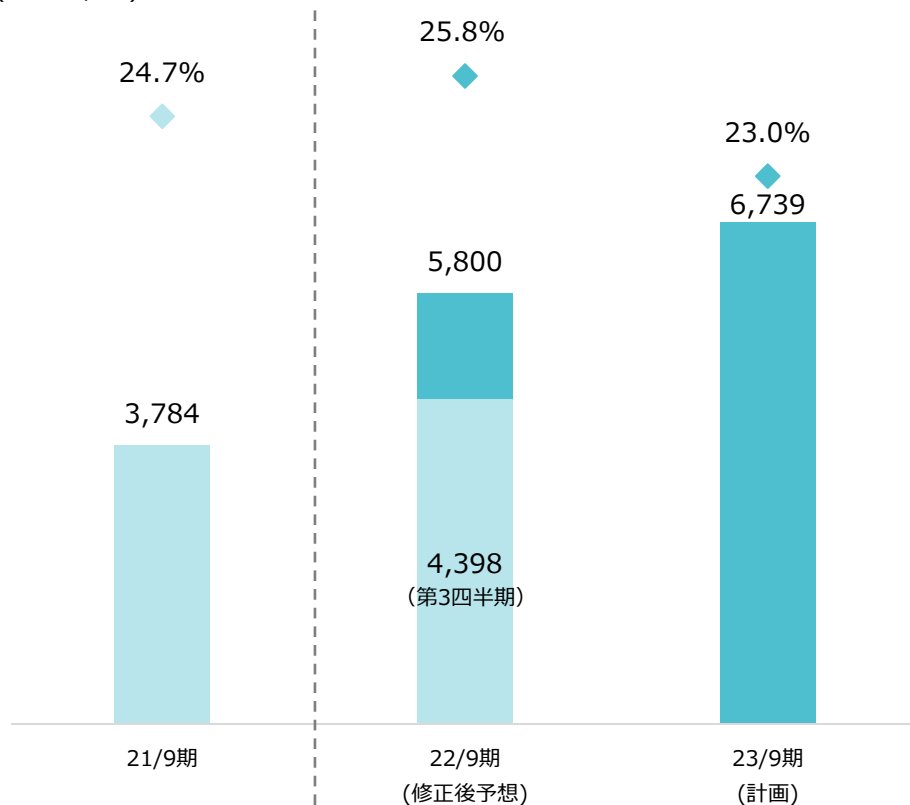
■実績 ■中計

- 注：
- 23/9期（計画）は2021年11月に公表した数値から変更なし
 - 施設数 / 定員数は、23年9月末時点において75施設 / 3,719名を予定しており、Amvis 2023目標を達成見込み

Amvis 2023目標

営業利益 / 営業利益率

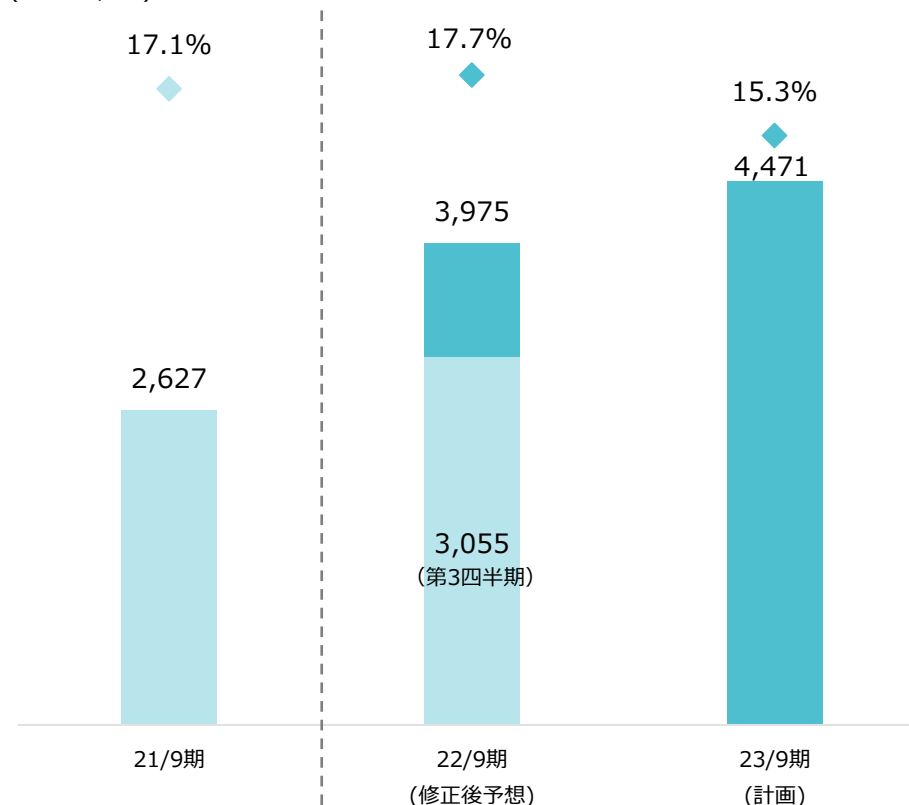
(百万円 / %)



■ 実績 ■ 中計

当期純利益 / 当期純利益率

(百万円 / %)



■ 実績 ■ 中計

注：

- 23/9期 (計画) は2021年11月に公表した数値から変更なし
- 22/9期第3四半期累計実績は、26.8% (営業利益率)、18.6% (当期純利益率)

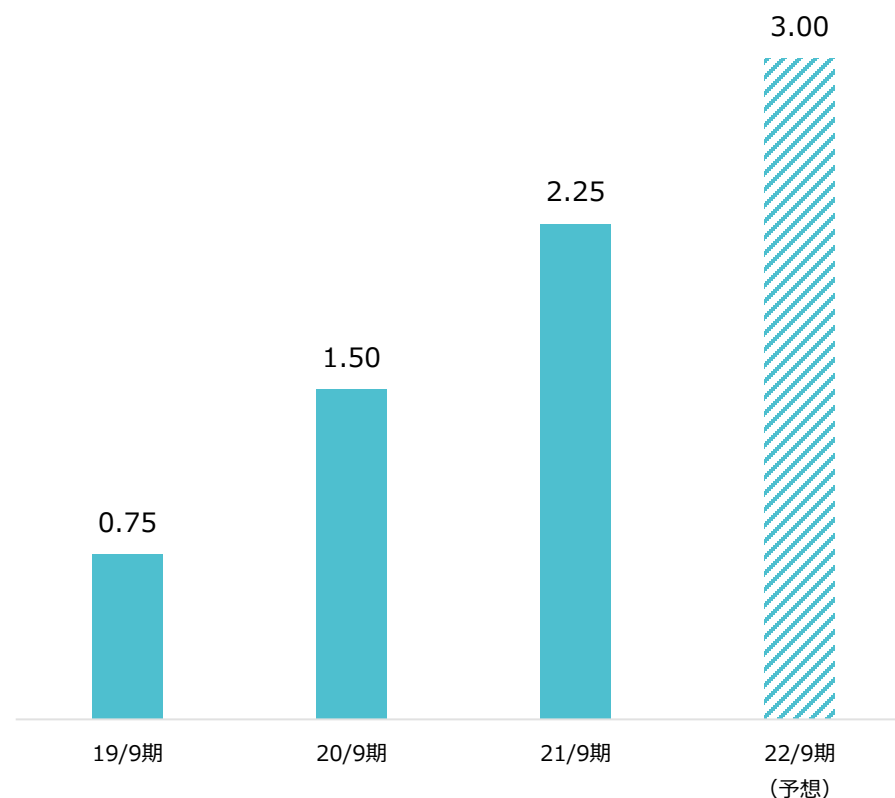
- 22年9期の1株当たり配当金は前年度対比0.75円増配の3円を予想。今後も1株当たり配当金を増額方針
- 引き続き成長の加速と株主還元のバランスを考慮し、企業価値の向上を企図

株主還元基本方針

- 株主に対する利益配分を重要な経営課題として捉え、医心館事業及びその周辺領域への事業展開と経営基盤の強化を図るための内部留保資金を確保しつつ、株主還元を実施し、企業価値の向上を企図
 - 株主配当：安定的な株主配当を基本とし、市場環境、規制動向、財務健全性等、総合的に勘案し、年1回の期末配当を実施

1株当たり配当金の推移⁽¹⁾

(円)



注：

1. 20年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合での株式分割、22年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合での株式分割を行っており、22年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合での株式分割を行うため、19/9期の期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の1株当たり配当金の金額を記載

本資料には、当社に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、当該記述のために、一定の前提を使用しています。当該記述または前提は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ございますが、詳細は、当社の決算短信、有価証券報告書をご参照下さい。なお、本資料における将来情報に関する記述は、上記のとおり本資料の日付時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

【お問い合わせ先】

株式会社アンビスホールディングス 財務部（IR担当）

電話：03-6262-5085 / Email：ir_contact@amvis.co.jp